

令和6年度第1回地域福祉計画策定委員会 議事録

～開会～

～副委員長あいさつ～

1. 議事① 京田辺市地域福祉計画の事業進捗状況について

～事務局から 京田辺市地域福祉計画の事業推進状況について説明～

【副委員長】

ご質問、ご意見が何かあればお願いします。

【委員】

資料2－1について

基本目標2の令和5年度の評価が23.5%となっていて、他の基本目標と比較しても一番高く、基本目標2の進捗が最も良いと予測ができる。一方、指標が実施の有無となっている施策については、行動目標の数値目標に対して近づいているかどうかの進捗管理がみえてこない。途中経過の数値目標に対しての進捗がわからなければ、PDCAを回していけない。実施の有無だけでなく、目標に対してどれだけ近づいたのかをどう測っていくのか。数値目標は市民アンケートから導き出された数値のため、次は第5期策定時に調査することになると思うが、計画期間の達成指標になるような数字があれば良いと思う。

【事務局】

本計画の数値目標は、計画本編の冊子のなかで数値目標をあげさせていただいている。ご指摘のとおり、令和2年度における現状値から7年度における目標値ということで、これを達成できたかどうかを確認するには、次期計画の調査の結果を待たなければ評価することが難しい。事務局としても課題だと認識している。第4期に関しては5年区切りで掲げているところだが、年度における事業進捗については、まずは資料2－2のとおり、各課で実施する事業について、計画に沿って取り組んでいるかの確認をしていきたいと考えている。可能な限り、定量化で目標値を定め、実績値も定量化し、誰もがわかるように数値目標を掲げてもらうようお願いしている。しかし、一部事業については数値化することが難しい場合や、単なる数字で取り扱うことが適当でないものもあるので、その部分については実施の有無などで判断をさせていただ

きたいと考えている。

【委員】

目標値の設定について、例えば32番の SNS の活用があるが、目標値が SNS を活用した発信回数となっている。社会福祉協議会が策定する京田辺市地域福祉活動計画の中でも同じく SNS の活用の項目があるが、フォロワー数と「いいね」の数を数値目標として掲げていて、実施回数ではなく、質で評価する形となっている。このように実施の有無だけでなく、中身が査定できるような数値目標にシフトしていけるように働きかけても良いのではないかな。

【事務局】

他にも情報を多く発信しているなかで、福祉関係の記事をピックアップし、評価指標として設定したものと予測する。

ご指摘のとおり、フォロワー数や「いいね」の数も一つの評価指標と考えているので、担当課の方には伝えさせていただき、設定値の見直しをお願いしていきたい。

2. 議事② その他(重層的支援体制整備事業について)

～事務局より説明～

【副委員長】

ご質問、ご意見が何かあればお願いします。

【委員】

資料3の支援体制のイメージ図の中で、重層的支援体制事業の説明では市役所の庁内連携の取り組みについては具体的な説明があったが、実際に地域づくり事業をするにあたっては、地域の協力がなければならない。

②の地域づくり事業の中に絆ネットコーディネーター、生活支援コーディネーターというものができたがこういったプロセスを経てやられるのか、今後どういうように考えているのか。

【事務局】

資料3に掲げている三つの柱の一つ①包括的相談支援事業については、行政の中でも比較的イメージしやすい内容となっており、体制づくりに向けた取り組みはワーキング部会でも議論が進んでいる。

ただ②の地域づくり事業、③の参加支援事業につきましては、京田辺市に限らず、行政の分野として比較的新しい取り組みとなる。国からも事業の概要は示されるが、取り組み方や内容に関しては、各市町村において地域の状況に応じて創意工夫で実施することが求められているため、どのように進めていけばいいのかの議論を進めているところである。

ご指摘のとおり、地域づくり事業を進めるにあたっては、これまでの地域に根ざした事業だけでなく、区、自治会や民生委員など地域に根ざした活動をされている方々がおられるので、そういった方々と議論していくことは必要不可欠だと考えている。また、現在社会福祉協議会で実施されている絆ネットワーク事業についても、サロン活動の支援で、絆ネットコーディネーターと区・自治会の間で顔が見える関係づくりができています。そういったところを活用しながら重層的支援体制整備事業における地域づくり事業を前に進めていきたいと考えている。

地域づくり事業も重層的支援体制整備事業も令和9年度スタートとなっているが、いきなり100%の体制でスタートするのは難しいと考えている。小さく始めて大きく育てるようなイメージで、事業を進めながら区、自治会、民生委員、地域で活動されるそれぞれの立場の方々と継続して議論を重ねながら、地域づくり事業や参加支援事業を進めていきたいと考えている。

【委員】

資料3の図の中の困窮や障がい、子どもなど色々な相談窓口が挙げられているが、どこに相談をしても受け止めるという認識でよかったか。市民としては自分が困っていることをどこに相談するかを選ぶ作業から始まる。そのため、どこに相談をしても受け止めてくれるというのが市民側からもわかるように見える化できるような工夫がいるのではないかと。受ける側がどのようなことでも聞くという体制であっても、それが伝わらなければハードルが高いままになってしまう。

もう一点、支援会議の他機関協働 CO というのは、一人の人をイメージしているのか？それとも部署を想定しているのか。

【事務局】

窓口の見える化に関して、「福祉なんでも相談」のようなワンストップサービスの相談窓口の看板を掲げてそこで受け止めるというやり方もあるが、本市では相談窓口の機関をすべてひとまとめにするのではなく、まずは既存の体制でやっていく方向性で考えている。ワンストップではなく、どこでもストップというような、自分たちだけでは対応できないような相談事であっても、一旦は相談を受け止める。そこから先の具体的な支援については適切な機関につなぐという想定をしている。

相談窓口の見える化については検討中である。先進自治体の中には既存の体制

を活かしたやり方で身近な相談窓口の見える化に取り組んでおられるところもあるので、それらも参考にしながら本市に適した体制を考えていきたい。

二つ目の多機関協働 CO について、現段階では、どこに何人配置するのかという具体的なことは決まっていないが、基本的には庁内の様々な部署の連携やチーム支援のコーディネート機能を担うことを想定しており、重層的支援体制整備事業の所管課が社会福祉課となるため、社会福祉課内の配置で調整を図るという想定をしている。

【委員】

多機関協働 CO というのは庁舎内で行われる事業という認識でいいか。

【事務局】

支援会議としては、主にイメージ図の円の中に書いている部署などを想定しているが、庁内だけでは対応できない事案も多い。その他／社会福祉協議会と記載があるが、ケースに応じて、関係機関にも入ってもらうことを想定している。

【副委員長】

その他、事務局より連絡等あれば。

～なし～

【副委員長】

本日の議事につきましては全て終了しましたので、これで終了します。ありがとうございました。

～閉会～

終了